

# 林木育種情報

No.21  
2016.3

## 林業の成長産業化に向けて

審議役 安樂 勝彦

今、林業は保育・間伐主体で施業を進めることを念頭においた政策体系から主伐・再造林の政策体系に円滑な移行を図りつつあります。主伐・再造林を本格展開し、林業の成長産業化を達成するために不可欠なものとして、林業の低コスト化が課題になっています。

林業の低コスト化の具体的な取組の一つが伐採から植栽までの工程を連続して行う一貫作業システムの採用です。コンテナ苗を使うことで植栽効率が大きく向上することはもとより、活着についても厳冬期、盛夏を除けば比較的良好であり、植栽時期の自由度が高くなりました。また、低密度植栽、下刈の省力化も加わり造林・保育経費の低減に繋がっています。

コンテナ苗でもうひとつ、とても大事なことがあります。コンテナ苗にどのような苗木を使うかということです。コンテナ苗のメリットを植栽から植栽後の短期間活かしきった後、次に露呈してくるのは苗木そのものがもつ資質です。資質とは、例えば下刈の保育期を過ぎた後の成長速度や材の剛性などの形質であったり、気象害や病虫害への耐性、更には花粉発生量が少ないことなどです。

林木育種センターではこれまで多くの品種等を開発してきました。初期成長に特に優れた造林コストを抑制するエリートツリーがスギ290系統、ヒノキ176系統、カラマツ60系統の合計526系統(平成26年度末)。花粉症対策、都市近郊の森林づくりに適している成長に優れた少花粉スギが140品種、ヒノキが55品種、低花粉スギが6品種、無花粉スギが2品種。マツノザイセンチュウに強く大切な海岸林や里山の整備に適したマツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ225品種、クロマツ171品種。雪による根元曲がり著しく少ない雪害抵抗性スギが46品種。剛性が特に優れた材質優良スギ41品種。CO<sub>2</sub>の吸収・固定能力が高く、地球温暖化防止に更なる貢献をする幹重量の大きいスギ69品種、ヒノキ23品種、カラマツ19品種、トドマツ11品種。材のねじれが小さく、加工しやすく、狂いの少ない材質優良カラマツ229品種などです(品種数平成27年度末)。また、農林水産大臣が指定する特定母樹にグイマツ1、スギ102、ヒノキ16、カラマツ15の合計134が林木育種センターから申請し、選ばれました(平成26年度末)。これらの品種等が林業の成長産業化を達成するために全国で活用されることを期待しています。

### 【紙面紹介】

平成27年度に開発した新品種 ..... 2～3  
 林木遺伝資源の「見える化」について ..... 4  
 小さな発見から役立つ成果  
 ～ *Acacia tortilis* の発芽促進手法～ ..... 5

ゲノム編集技術：林木育種への利用にむけた  
 技術開発(2) ..... 6  
 遺伝子発現レベルからみたスギの環境適応 ..... 7  
 平成27年度林木育種成果発表会の開催 ..... 8

